

上部頸椎専門 8

カイロプラクティック 臨床レポート

日本上部頸椎カイロプラクティック協会正会員 高橋 祐一郎*

上部頸椎一箇所のアジャストメントによる身体の変化を臨床例から報告しています。今回は妊娠9ヵ月半の方の腰痛が改善したレポートです。

臨床におけるルールは以下のとおりです。

1. 病気・症状の診断、治療は行いません。
2. 必ず検査を行い、上部頸椎のサブラクセーションの有無を確認します。
3. 検査の結果、上部頸椎にサブラクセーションがなければ、アジャストメントは行いません。
4. 他の療法との併用、健康器具を使用しないで様子を見て頂きます。

妊娠期間中、腰痛に悩まされる人は少なくありません。また妊娠期間中の腰痛治療に対して不安を覚える方も少なくないでしょう。

上部頸椎専門カイロプラクティックは上

部頸椎一箇所のアジャストメントで改善へと導きます。故に腰椎、骨盤に対して外部からの力で矯正する事はありませんので、妊婦さんにも安心して受けて頂くことが出来ます。

□症例□

妊娠9ヶ月半で腰痛に苦しむ女性

※症例の患者さんは妊娠時の腰痛になる以前にも度々上部頸椎の検査とアジャストメントを受けられていますので、その経過も含めて報告致します。

●経過

1996年4月1日、停車中に後方から追突されムチウチになり、両コメカミ部の頭痛がある。前頭部がボーッとしている。首から肩、背中まで重苦しい。以前から首と肩が凝る。腰痛。両足がつる。両肘から手首

*高橋祐一郎 (たかはし・ゆういちろう)

●連絡先：愛気カイロプラクティックオフィス
〒257-0036 神奈川県秦野市元町7-14
TEL. 0463-82-6859 FAX. 0463-82-6870
協会HP：www.specific.jp

に痺れがある。たまに耳鳴りがする。胃痛。胸が痛いことがある。便秘気味。全身がだるい、疲れる等の症状があり、整形外科にて鎮痛剤、筋肉緩和剤、胃薬を処方され服用している。

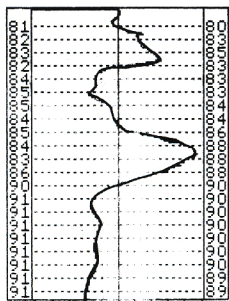
初回・来院1回目 1996.4.21

●アジャスト前の検査
伏臥にて右足が1cm短い。
仰臥にて左足が1cm短い。
仰臥における両手挙上にて左手が1cm短い。

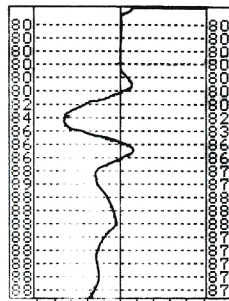
上部頸椎リスティングASLAでアジャストして休息用ブースで50分間休んでいただく。

●アジャスト後の検査
伏臥にて右足が1cm短い。→揃う。
仰臥にて左足が1cm短い。→0.3cm残る。
仰臥における両手挙上にて手の長さが揃う。

頸部の皮膚表面温度の波形



アジャスト前



アジャスト後

姿勢



アジャスト前



アジャスト後

**2回目 1996. 5.7
アジャストより約2週間半後**

●経過

頭痛良好。前頭部の感じも良い。首から肩、背中では夜になると張るが、以前より良い。首と肩の凝りは大分良い。腰痛は快方へ向かっている。両足がづらなくなった。両肘から手首の痺れは良い。耳鳴りしなくなる。胃痛は1、2回あったが前より良い。胸痛はない。便秘気味はまだある。全身のだるさはアジャスト後7日位がすごかったが、今は大分良い。

※薬の服用は自主的にアジャスト翌日から止めている。検査結果も良く、サブラクセーションなしと判断した。

2回目 1996.5.7 アジャストせず

3回目 2003.7.30

その後、2003年7月24日に出産した。難産であり翌日から左腰痛がある為、検査の為に7月30日に7年ぶりに来院。

検査の結果、サブラクセイションありと判断し、ASLAでアジャストした。

※アジャスト後の本人のコメント：痛みが来た時よりも楽になった。

3回目 2003.7.30 アジャスト

4回目 2004.4.26

続いて、翌年4月に来院。

腰痛と肩こりがある。

●アジャスト前の検査

伏臥にて右足が0.5cm短い。

仰臥にて左足が0.6cm短い。

仰臥における両手拳上にて左手が1cm短い。

サブラクセイションありと判断し、上部頸椎リステイングASLAでアジャストして休息用ブースで45分間休んでいただく。

●アジャスト後の検査

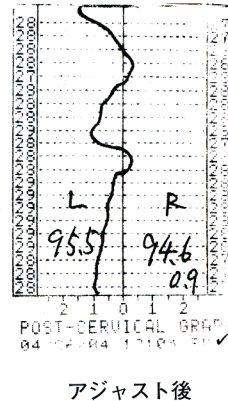
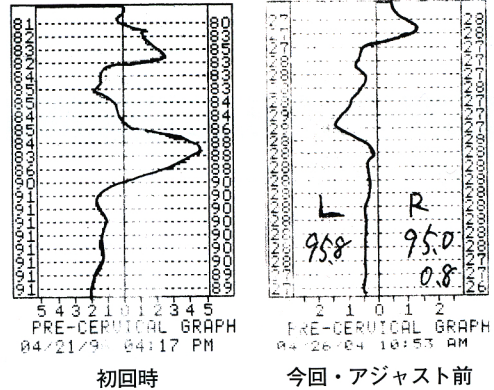
伏臥にて右足が0.5cm短い。→0.1センチ残る。

仰臥にて左足が0.6cm短い。→揃う。

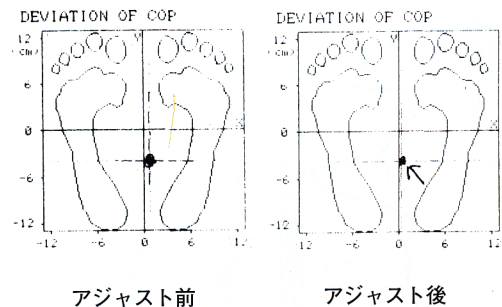
仰臥における両手拳上にて手の長さが揃う。

※本人のコメント：痛みが来た時よりも楽になった。

頸部の皮膚表面温度の波形



重心



4回目 2004.4.26 アジャスト

5回目 2005.4.11

右腰痛があり、現在妊娠9ヵ月半になるが1週間前から咳をすると痛く、昨日からは息をしても痛い。

※妊婦検診に行っても腰痛の為に診察台上がれない状態である。

●アジャスト前の検査

仰臥にて左足が1cm短い。

仰臥における両手挙上にて右手が2cm短い。

他の検査からもサブラクセイションありと判断し、上部頸椎リスティングASLAでアジャストして休息用ブースで55分間休んでいただく。休んでいる時にすごく身体が熱くなったとのこと。(血液循環が良くなったために起こる)

●アジャスト後の検査

仰臥にて左足が1cm短い。→揃う。

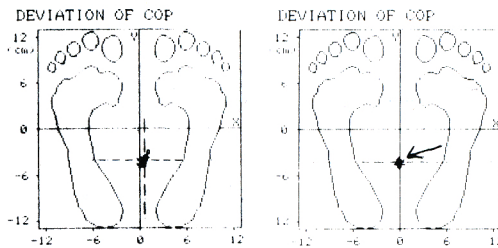
仰臥における両手挙上にて手の長さが揃う。

※ 本人のコメント：腰が大分楽になった。

※ 後日、安産だったと報告を受け、大変喜ばれた。

5回目 2005.4.11 アジャスト

重心



アジャスト前

アジャスト後

姿勢



アジャスト前

アジャスト後

～施術者コメント～

スペシフィック・カイロプラクティックの臨床に携わってはや19年が過ぎましたが、この奇跡とも言えそうなスペシフィック・カイロプラクティックの素晴らしさに一度も疑問も矛盾も感じません。また、この間に平成7年から3年半にわたり手技療

法に投稿もさせていただきました。そのお陰で『原因は一つ、健康の鍵は上部頸椎』を出版することが出来ました。その後も、益々「自然治癒力」の素晴らしさを実感していますし、人間の身体を治せるのは「先天的知能・自然治癒力」しかないという確信を強めています。時には人の手助けも必要なことは理解しています。私たちのアジャスト然り、物質の限界を越えた部位に対しての手術も然りです。しかし、他に人の手助けはそれほど多くは必要ないはずで、B.J.パーマーも「自然は助けを必要と

しない」と明言しています。そこで私が考える人生を健康で生き抜くコツを二つ述べてみます。そのひとつは上部頸椎にサブラクセーションがなく、生命エネルギーが正常に伝達されていることです。後のひとつは日常の生活における自己管理（食事・睡眠・運動など）です。この二つが出来ていれば、健康で楽しく人生を全うすることが出来ます。私たち日本上部頸椎カイロプラクティック協会の会員はこの重要な片翼を担っていますので、会員各々は臨床に誠意をもって真剣に打ち込んでいます。